

世界史

注 意 事 項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙はすべて黒鉛筆(HB)〈シャープペンシルは、HB 0.5 mm 以上の芯であれば使用可〉で記入することになっています。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- III 解答用紙右端の出席票に印刷されている受験番号を確認してください。間違いがなければ氏名欄に署名し、切取線から切り離してください。
- IV 試験時間は 60 分です。
- V 問題は 13 ページで大問 4 問です。

マーク記入上の注意

1. 解答欄にマークするときは、HBの黒鉛筆で次の正しい例のように、濃く正確にぬりつぶしてください。
2. マークのしかた

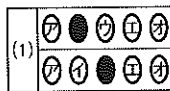
(ア) 正しい例

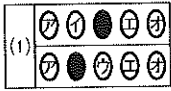
a 解答が1つの場合、例えばイと解答するときは



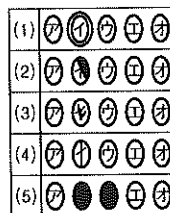
のように、マークしてください。

b 解答が2つの場合、例えばイとウと解答するときは



または  のように各1つずつマークしてください。

(イ) 悪い例



○印でかこむ。

全部をぬりつぶしていない。

レ印をつける。

|印をつける。

1欄に2つ以上マークする。

このような記入をしてはいけません。

3. 一度記入したマークを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおしてください。



のように×印をしても消したことはありません。

4. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、また汚したりしないでください。

〔 I 〕 次の文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を{ }内の(ア)ないし下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。

中国南部の沿岸地域には、古くから海上交易で栄えた港市が存在する。その一つが、唐代に市舶司が最初に置かれた広州である。唐代の広州は西方からやってきた(1){(ア) 山西}商人の拠点として栄えたが、山東の塩の密売人である(2){(ア) 朱全忠}が起こした反乱によって荒廃した。宋代には市舶司が数カ所に置かれ、中でも現在の福建省にある(3){(ア) 泉州}が新たな拠点として浮上する。(3)は、サルコンとも呼ばれ、中国人海商はここを拠点として東南アジア方面との交易活動を活発に行い、元代には南海交易における中国一の港となった。彼らが南海交易で用いたのは、遠洋航海用の(4){(ア) ダウ}船であるが、韓国西南沖の海底でみつかった沈没船は、14世紀前半に慶元から博多に向かう途中で沈没した(4)船であり、この船が中国南部から北上して(5){(ア) 高麗}や日本にもやってきたことが分かる。記録によれば、(5)では、都である開城に中国商人のための客館が置かれ、(3)をはじめとする福建の出身者が官吏となって活躍したという。

福建・広東の人々の海外進出は、交易活動にとどまらず、移住という形でも行われた。明の冊封を受けた(6){(ア) 琉球}王国には多くの福建系中国人が移り住み、日本や東南アジアと明を結んで盛んに交易を行った。

中国社会が安定し、人口が急増していった18世紀末以降、福建・広東地域からはさらに多くの海外移住者が出るようになった。彼らは南洋華僑と呼ばれ、居住先で経済的な成功を収める者もいたが、その一方、イギリスがマレー半島で開発した(7){(ア) 金}鉱山の単純労働者として働く人々も多かった。

このような中国人の渡航・移住とともに広がったのが、媽祖^{マツ}信仰である。媽祖は宋代に実在したとされる女性が後に神格化され航海安全の神となったもので、彼らの行く先々で廟が建てられた。媽祖の廟は、オランダ東インド会社の根拠地となったジャワ島の(8){(ア) アユタヤ}や、スペインがアカプルコ貿易の拠点としていたルソン島の(9){(ア) マニラ}など、東南アジアの各地に存在する。1557年にポルトガルが居住権を獲得した(10){(ア) 厦門^{アモイ}}という地名は、

この地にある媽祖の廟の名に由来するという説もある。

[語群]

- | | | | |
|-----------|------------|---------------|---------|
| (イ) マカオ | (ウ) 扶南 | (エ) 銅 | (オ) 福州 |
| (カ) 錫 | (キ) ムスリム | (ク) シュリーヴィジャヤ | |
| (ケ) バタヴィア | (コ) ガレオン | (サ) 新羅 | (シ) 香港 |
| (ス) 上海 | (セ) シンガポール | (ソ) アルメニア | (タ) 安祿山 |
| (チ) 朝鮮王朝 | (ツ) 黄巢 | (テ) ジャンク | |

〔Ⅱ〕 歴史上の人物X、Yについての記述を含む次の文の(1)～(9)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。また、(A)の間に答えなさい。

1945年に第二次世界大戦が終結すると、敗戦国のドイツは激動といってもよい変化を経験しつつ国際社会への復帰をめざすこととなった。

第二次世界大戦後のヨーロッパでは東西間の分裂がすすんだ。このとき東ヨーロッパを中心に勢力圏の拡大を図ったソ連の指導者スターリンに対し、これに対抗する姿勢をとったのがアメリカ合衆国大統領の(1)である。

第二次世界大戦中、ソ連のスターリン、アメリカ合衆国大統領X、イギリスのYは戦争方針について協議するため数度にわたって会談しているが、Xが参加したのは1945年2月の(2)会談が最後となった。ドイツ降伏後に行われた(3)会談には、死亡したXにかわって大統領となっていた(1)が出席した。なお、はじめこの会談に出席していたイギリスのYも途中で(4)と交替している。

(1)は、大戦後の1947年、ソ連の勢力拡張を抑えるため「封じ込め」政策を宣言して(5)の内戦に介入した。ついでアメリカ合衆国^①國務長官のマーシャルがヨーロッパの復興のための財政支援計画(マーシャル=プラン)を発表すると、西ヨーロッパ諸国がこれを受け入れた一方、東ヨーロッパ諸国は結局拒否することとなった。

東西間の亀裂と対立が深まっていくなか対決の最前線に立たされたのがドイツである。敗戦後、ドイツはアメリカ合衆国・イギリス・フランス・ソ連の4国による分割占領と共同管理の対象となり、旧首都ベルリンも分割された。その後西側3国の占領地区とソ連占領地区の分断がすすんだ結果、1949年、西側ではドイツ連邦共和国(西ドイツ)が(6)を首都として成立した一方で、ソ連側ではドイツ民主共和国(東ドイツ)が成立し、ドイツの東西分裂という事態になった。

冷戦の進展にともない東西両陣営はそれぞれ同盟を結んで対立するようになった。イギリス、フランスなど西ヨーロッパの5カ国は、ソ連による東欧支配の強化に対抗して1948年に西ヨーロッパ連合条約((7)条約)を結んだ。翌年、

アメリカ合衆国を含めた西側の 12 カ国は北大西洋条約機構(NATO)を結成する。その後、NATOに加わったのが西ドイツである。1949年に首相となったキリスト教民主同盟の(8)のもとでめざましい経済復興に成功した西ドイツは、1955年になるとNATOに加盟した。一方、ソ連と東欧諸国は1955年、コミン^②フォルムを発足させた。

東西対立の緊張を緩和しようとする動きも見られた。スターリンが1953年に死亡した後、ソ連の指導者となったフルシチョフは西側諸国との関係改善をはかり、1959年に訪米し、(9)大統領と会談した。

[語群]

- | | | |
|-----------------|------------|-----------------|
| (ア) ボン | (イ) テヘラン | (ウ) トルーマン |
| (エ) イーデン | (オ) オーストリア | (カ) ヤルタ |
| (キ) エリゼ | (ク) アデナウアー | (ケ) フィンランド |
| (コ) ケルン | (サ) ニクソン | (シ) フランクフルト |
| (ス) アトリー | (セ) ブラント | (ソ) アイゼンハワー |
| (タ) ジョンソン | (チ) ポツダム | (ツ) マーストリヒト |
| (テ) カイロ | (ト) ギリシア | (ナ) フーヴァー |
| (ニ) コール | (ヌ) ケネディ | (ネ) ブリュッセル |
| (ノ) ダンバートン=オークス | | (ハ) ネヴィル=チェンバレン |

(A) 下線部①・②について、①のみ正しければ(ア)を、②のみ正しければ(イ)を、両方正しければ(ウ)を、両方誤りであれば(エ)をマークしなさい。

〔Ⅲ〕 次の文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。また、問1～5に答えなさい。

紀元前11世紀、殷を滅ぼした周は一族・功臣や土着の首長を世襲の(1)に任じて封土を治めさせる封建を行ったとされる。戦国時代の儒家である(2)によれば、井田制と呼ばれる土地制度を施行したとされるが、その実態は分かっていない。周の社会秩序は、宗法という規範に代表されるように、(3)にもとづく帰属意識を基礎とするものであったが、このような規範は春秋・戦国時代の動乱のなかで、しだいに「礼」と呼ばれる行動規範となった。

春秋・戦国時代の大きな社会変革を経たのち、没落した小農民を小作人として支配下に置く有力者が出現した。(4)と呼ばれた彼らは、大土地経営を基盤として、漢代を通じて勢力を伸ばしていった。前漢から帝位を奪った(5)の王朝が敗滅したのち、後漢をたてて漢を再興した(6)も、地方で力を持った(4)の一人であった。後漢時代、(4)は九品中正^aと呼ばれた官吏任用制度のもとで、「経学」すなわち儒教^①經典の素養を身につけ、官僚となって国政に携わる者も出てきた。

三国時代の魏で始まった郷^b里選は、結果的に有力な一族による高い官職の独占を促進し、名門とされる家系の固定化を招いた。こうした名門を(7)と呼ぶ。彼らは中央では高級官僚であると同時に、地方社会においては莊園を営む大土地所有者であった。歴代王朝は、国家の基盤である自作農の保護のために土地所有に制限をかけようと試みたが、その効果は限定的であった。

7世紀初めに(8)が隋に代わって唐をたてた。唐は、土地制度として隋で行われた屯田^c制を継承し、自作農を国家が直接支配することをめざしたが、大土地所有も依然として認められていた。また隋で始まった科^d挙は唐でも実施されたが、一方で蔭位の制、すなわち高級官僚の子弟が任官できる制度もあり、(7)が力を持つ政治体制がただちに変わることはなかった。

しかし8世紀半ばに勃発した安史の乱を機に、唐の社会は大きく変化しはじめ、混乱の中で(7)はしだいにその勢力を失っていった。780年に施行された(9)は、現有の資産に応じて課税する制度であるが、これは農民の土地私有

を実質的に認めるものであった。この土地私有の公認にともない、地方社会では新興の地主層が力を伸ばしていった。

10世紀半ばに成立した宋では、こうした新興地主層から官僚が輩出した。彼らは宋の文治主義のもとで士大夫と呼ばれる政治的・社会的指導層を形成した。士大夫は、宋代の新たな文化の担い手でもあり、はなやかな唐代の文化に対して、内面的・実用的な特徴を持つ宋代文化を生み出していった。また宋では商業に対する規制が緩められ、都である(10)に代表される都市の繁栄がもたらされた。それにともなって貨幣経済も発達し、銅銭が大量に鑄造され、海外にも輸出された。

〔語群〕

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| (ア) 豪族 | (イ) 李淵 | (ウ) 卿 | (エ) 劉邦 |
| (オ) 形勢戸 | (カ) 君臣関係 | (キ) 孔子 | (ク) 諸侯 |
| (ケ) 冊封関係 | (コ) 親族関係 | (サ) 劉備 | (シ) 租調庸制 |
| (ス) 開封 | (セ) 一条鞭法 | (ソ) 長安 | (タ) 孟子 |
| (チ) 鄭玄 | (ツ) 劉秀 | (テ) 門閥貴族 | (ト) 李元昊 |
| (ナ) 両税法 | (ニ) 李成桂 | (ヌ) 郷紳 | (ネ) 王莽 |
| (ノ) 洛陽 | | | |

問1 下線部①に関連し、漢代に儒教經典として重視された「五經」に含まれないものを次の(ア)～(エ)から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- (ア) 『詩經』 (イ) 『春秋』 (ウ) 『易經』 (エ) 『論語』

問2 下線部②に関連し、10世紀に成立した国家として最も適当なものを次の(ア)～(エ)から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- (ア) 遼(契丹) (イ) 渤海 (ウ) 南詔 (エ) 西夏

問3 下線部③に関連し、宋代文化の記述として最も適当なものを次の(ア)～(エ)から一つ選び、その記号をマークしなさい。

(ア) 儒教經典の注釈書として『五経正義』が編纂された。

(イ) 詩文の名作を集成した『文選』が編纂された。

(ウ) 『三国志演義』や『水滸伝』などの小説が普及した。

(エ) 水墨や淡い色彩で描く文人画が流行した。

問4 波線部 a・b について、a のみ正しければ(ア)を、b のみ正しければ(イ)を、両方正しければ(ウ)を、両方誤りであれば(エ)をマークしなさい。

問5 波線部 c・d について、c のみ正しければ(ア)を、d のみ正しければ(イ)を、両方正しければ(ウ)を、両方誤りであれば(エ)をマークしなさい。

〔Ⅳ〕 次の文の(1)～(5)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群Ⅰから、(6)～(11)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群Ⅱから選び、その記号をマークしなさい。また、問1～4に答えなさい。

ローマ支配下のパレスチナに生まれたイエスは、(A)。民衆はイエスを救世主と信じて彼の教えに従うようになったが、祭司たちはイエスをローマに対する反逆者として訴えたため、イエスは処刑された。イエスの死後、彼が復活したという信仰が生まれ、(1)などの弟子たちによって伝道活動が行われ、イエスを救世主とするキリスト教が広まった。

キリスト教が生まれた頃のローマでは、皇帝崇拜儀礼が強化されていたため、皇帝礼拝を拒むキリスト教徒は、しばしば迫害を受けた。しかし、キリスト教はローマ帝国全土に拡大を続け、4世紀初めには公認された。『教会史』を著わした(2)などのキリスト教思想家たちも、正統教義の確立に努め、のちの神学の発展に貢献した。4世紀後半には「背教者」と呼ばれた(3)が多神教復興を企てたが、成功しなかった。

4～5世紀には五本山と呼ばれる教会が重要となった。ローマ帝国末期、五本山のなかではコンスタンティノーブル教会とローマ教会が最有力であった。コンスタンティノーブル教会を頂点とするギリシア正教会は、(B)正教圏の拡大を図った。正教圏では、ギリシア正教と古典文化が融合した、独自のビザンツ文化が築かれた。(C)を特色とするビザンツ様式の教会建築もその一つで、6世紀にコンスタンティノーブルに建立された(4)が有名である。ビザンツ文化はその後、(D)。

他方、使徒(1)の後継者を自任するローマの司教は、ローマ教会の首位権を主張し、教皇と呼ばれるようになる。6世紀末の教皇グレゴリウス1世は勢力拡大のため、(5)修道会の修道士を派遣するなどして、ゲルマン人への布教を熱心に行った。

〔語群 I〕

- | | | |
|----------------|-----------------|------------|
| (ア) フランチェスコ | (イ) ピサ大聖堂 | (ウ) エウセビオス |
| (エ) 聖ワシーリー聖堂 | (オ) キケロ | (カ) タキトゥス |
| (キ) ベネディクト | (ク) トリボニアヌス | |
| (ケ) テオドシウス帝 | (コ) デイオクレティアヌス帝 | |
| (カ) ユリアヌス帝 | (シ) メシア | (ス) パウロ |
| (セ) サン=ヴィターレ聖堂 | (ソ) アウグスティヌス | |
| (タ) ドミニコ | (チ) ハギア=ソフィア聖堂 | |
| (ツ) ペテロ | | |

問1 (A)・(B)に入る文の組合せとして、最も適当なものを次の(ア)～(エ)から選び、その記号をマークしなさい。

(A)に入る文

- (a) 貧富の区別なくおよぼされる神の絶対愛を説いた
- (b) 神の命令である律法を厳格に守ることを説いた

(B)に入る文

- (a) ビザンツ皇帝と結びつき
- (b) ビザンツ皇帝の権力から自立し

- | | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| (ア) A — a | B — a | (イ) A — a | B — b |
| (ウ) A — b | B — a | (エ) A — b | B — b |

問2 (C)・(D)に入る文の組合せとして、最も適当なものを次の(ア)～(エ)から選び、その記号をマークしなさい。

(C)に入る文

- (a) 重厚な石壁と小さな窓
- (b) ドームとモザイク壁画

(D)に入る文

- (a) 信仰を論理的に体系化しようとするスコラ学を発展させた
- (b) 東スラヴ人(ロシア人・ウクライナ人など)をその文化圏に取り込んだ

- (ア) C — a D — a
- (イ) C — a D — b
- (ウ) C — b D — a
- (エ) C — b D — b

中世の西ヨーロッパでは、皇帝や国王などの世俗権力が教会に介入するようになり、様々な弊害が生じた。そのため、教皇を中心とする教会改革運動が展開された。教皇(6)は、(E)。さらに(6)は、聖職叙任権を世俗権力から教会の手に移そうとし、ドイツ国王ハインリヒ 4 世と対立した。

(7) 末、聖地イェルサレムを奪還するための十字軍が教皇によって提唱され、各国の諸侯や騎士からなる第 1 回十字軍が出発した。その後 13 世紀後半まで断続的に軍事遠征が行われたが、聖地回復の目的はついに達成されなかった。例えば、イギリスのジョン王を破門したことで知られる教皇が提唱した十字軍は、(F)。他方で、十字軍の影響で交通が発達すると、遠隔地商業で発展する都市が現れた。また、フィレンツェなどの内陸都市も、(8)業や金融業で栄えた。

14 世紀初頭、フランス国王は、聖職者への課税をめぐる教皇と対立した際、(G)。1309 年、この国王は教皇庁を南フランスのアヴィニョンに移した。この出来事は、前 6 世紀に(9)によって滅ぼされたユダ王国の住民がバビロンに連れ去られた故事にちなみ、「教皇のバビロン捕囚」とも呼ばれる。しかし、これはフランス国王が強制したのではなく、政治的に不安定なローマを一時的に避けるために教皇が選択したという見方もある。約 70 年後、教皇庁がローマに戻ると、(H)。

14 世紀後半から 15 世紀初頭にかけて、神学者のウイクリフやフスが、聖書こそ最高の権威であると説き、教皇の権威を否定した。フスによる聖書の翻訳は、(10)の人々に大きな影響を与えた。神聖ローマ皇帝の提唱で開かれた(11)公会議は二人を異端とし、フスは捕えられ処刑されたが、その後も(10)ではフス派の反乱が長く続くことになった。

〔語群Ⅱ〕

- | | | |
|-----------------|---------------|------------|
| (ア) 10世紀 | (イ) ネブカドネザル2世 | (ウ) キュロス2世 |
| (エ) グレゴリウス7世 | (オ) 毛織物 | (カ) 12世紀 |
| (キ) レオ10世 | (ク) ハンガリー | (ケ) 綿織物 |
| (コ) インノケンティウス3世 | | (サ) ベーメン |
| (シ) ダレイオス1世 | (ス) 絹織物 | (セ) トリエント |
| (ソ) ボニファティウス8世 | (タ) 第4ラテラノ | (チ) セルビア |
| (ツ) 11世紀 | (テ) クロアチア | (ト) コンスタンツ |
| (ナ) アルサケス | | |

問3 (E)・(F)に入る文の組合せとして、最も適当なものを次の(ア)～(エ)から選び、その記号をマークしなさい。

(E)に入る文

- (a) 聖職売買や聖職者の妻帯を禁止した
- (b) 初期キリスト教の教理に反するとして、聖像崇敬を禁止した

(F)に入る文

- (a) 聖地回復の目的を捨て、コンスタンティノーブルを占領した
- (b) 神聖ローマ皇帝・フランス王・イギリス王が参加したが、成功しなかった

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (ア) E — a F — a | (イ) E — a F — b |
| (ウ) E — b F — a | (エ) E — b F — b |

問4 (G)・(H)に入る文の組合せとして、最も適当なものを次の(ア)～(エ)から選び、その記号をマークしなさい。

(G)に入る文

- (a) 国内の諸侯が離反の動きを見せたので、イタリアの教皇をたずねて謝罪した
- (b) 聖職者・貴族・平民の代表を召集し、その支持を得て、王権の基盤を強化した

(H)に入る文

- (a) アヴィニオンに別の教皇が立ち、互いに正統性を主張し対立した
- (b) 異端のアルビジョワ派が、南フランス諸侯の保護を受けて勢力を拡大した

- (ア) G — a H — a (イ) G — a H — b
- (ウ) G — b H — a (エ) G — b H — b

(以上)

